

コンセプトマップ

「八王子市こども育成計画」で目指すもの

子ども家庭支援ネットワーク（地域の子育て・子育て支援ネットワーク）の構築

子育て支援・子育て支援のネットワークづくりの中には、子どもも一員として加えて！

大人が子どもの「社会参加」の機会を作る必要がある。

大テーマ：**子どもも大切な地域のひとり**

そこで大切なのは

大人が「おせっかい」であること

大人がすすんで子どもや周りの親と、コミュニケーションをとる。

子どもと大人が地域の中で**対等な関わり**をもつこと

大人と子どものパートナーシップ

子どもと対等に関わるには、大人が意識を変えて子どもにわかりやすく物事を説明する責任がある。子どもが自分のペースで考える時間と、相手に気持ちを伝える機会を与え、（意見表明権）大人がそれに耳を傾けることは、真剣に向き合わなければならない。大人が本気でかかわる姿をみせることで、子どもは“自分”が大切にされているという実感をもてる。

「自分の（子どもの）“権利”が大切にされたという実感をもつ」

自分が大切にされているという実感で相手の権利も理解できる。

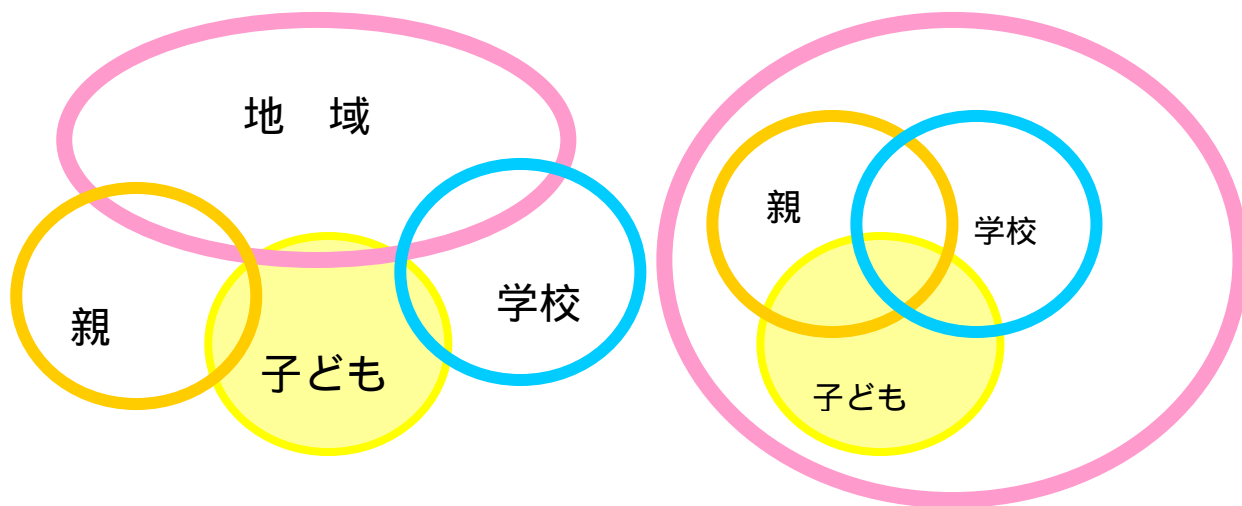
「他人にも“権利”があることを理解し、大切にできる」

小テーマ：**大人の本気の姿とはなにか？**

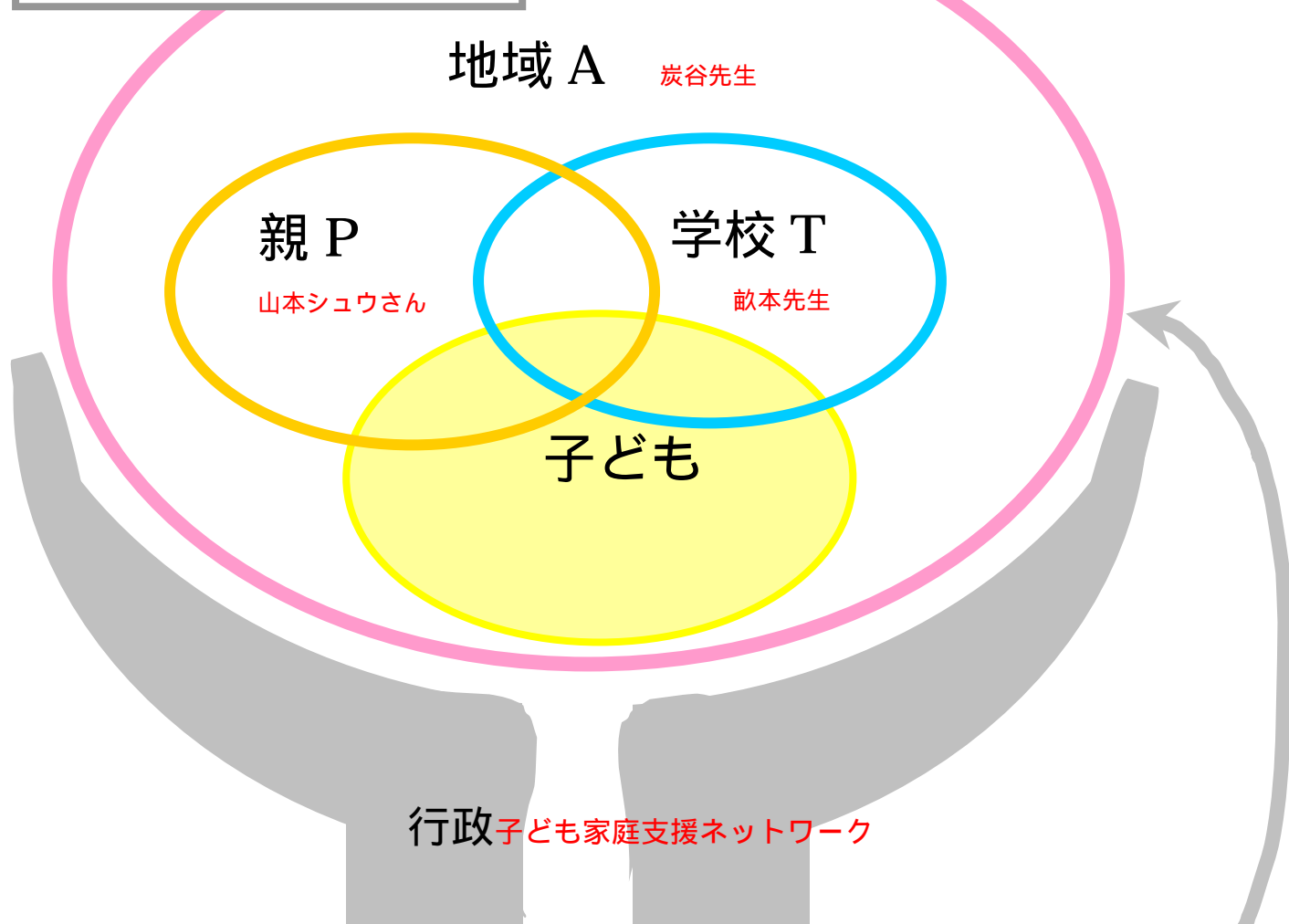
【例】子どもが一番身近な学校との関わりの実践例が山本シュウ氏の“PTAA”の取り組み。

単独のそれぞれの立場での関わり

相互の複合的な関係性の中での
子育て子育て支援へ（おせっかいの世界）



相互の複合的な関係性の中での
子育て子育て支援へ(おせっかいの世界)



それぞれの立場で活動する内容を紹介しながら、また、複層的な立場で子どもへのかかわりの中から、「子育て・子育て」を支える子ども家庭支援ネットワークの考え方の説明をしたい。

ネットワークは、子どもの権利の尊重を基本にして、地域全体の協力で「子育て」を支えるまちづくりをすすめることをめざすもの。

そのためには、地域の誰もがそれぞれの役割をはたすことが求められており、市民と行政の協働が不可欠。

行政としては、地域の活動をバックアップしていくことや、子ども会議開催などのほか、子どもが地域(社会)に参加できる、制度的な仕組み作りを行う必要がある。

この仕組みは、地域そのものを子どもの視点で再構築するための子どもの施策で、大人の一方的な判断ではなく、子どもの声や意識を大事にし、大人と子どもの意識のずれを埋めるためのものになる。